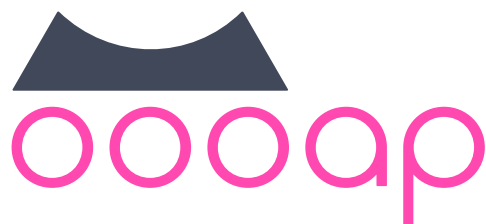


あなたならここで
どんな暮らしを語りますか

松本城三の丸エリアビジョン
アクションプラン 令和7年3月



Action plan

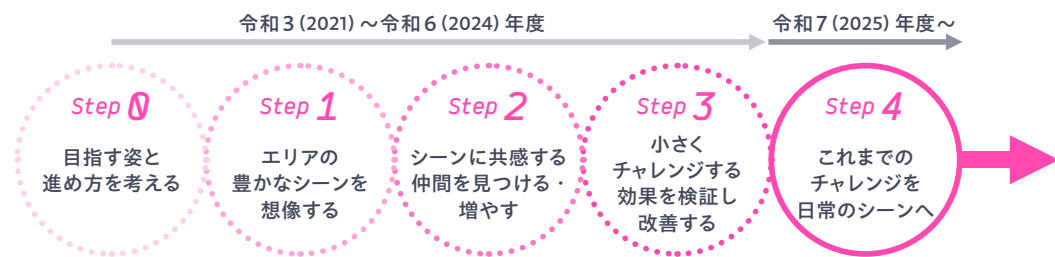
アクションプランとは

「エリアビジョン」で描いたシーンを 日常とするための具体的な行動指針

松本城三の丸エリア（以下、「三の丸エリア」）では、エリアビジョンの実現を推進する民間主体の組織「三の丸エリアプラットフォーム」（以下、「三の丸AP」）が令和4年12月に立ち上がりました。令和5-6年度には、三の丸APのメンバーを中心に、7つの界限で様々なチャレンジ（社会実験）を実施。界限に新しく豊かなシーンが生ま

れました。続く令和7年度からは、これまでのチャレンジを日常のシーンとしていくため、2年間で得られた成果を基にした、さらなる取組みへと移行していきます。
「松本城三の丸エリアビジョンアクションプラン」（以下、

「アクションプラン」）は、令和7年度以降に行政と民間が参照しながらプロジェクトを進めていくための具体的な行動指針です。今後も、三の丸エリアの様々な取組みに活用されていきます。



社会実験効果検証総括：「誰かに語りたくなる暮らし」の実現に寄与

2年間に実施した社会実験が「誰かに語りたくなる暮らし」の実現に寄与しているかを検証するため、利用者アンケート調査、アクティビティ調査、交通量調査等による効果測定を行いました。その結果、偶然の出会いが生まれたことや利用者の高い満足度、多様なアクティビティが生まれたこと、新たなチャレンジが多くなされ

たこと、長時間の滞在が生まれたことなどにより、「誰かに語りたくなる暮らし」が一時的に実現できました。効果が見られた一方で、様々な課題も見えてきました。
今後は、この効果検証結果をプロジェクトに反映すると共に、この成果が日常的に生まれるよう、ハード整備や仕組みづくりへと展開していきます。

ビジョン 誰かに語りたくなる暮らし

効果検証 総括 (令和5-6年度)

何気ない日々の暮らしを楽しむ 「偶然の出会い」	お気に入りの居場所がある 「選択肢の多様さ」	チャレンジしたくなる 「寛容さ」	街の物語を感じられる 「街への愛着」	会いたい人がいる 「顔が見える繋がり」
----------------------------	---------------------------	---------------------	-----------------------	------------------------

効果 検証結果

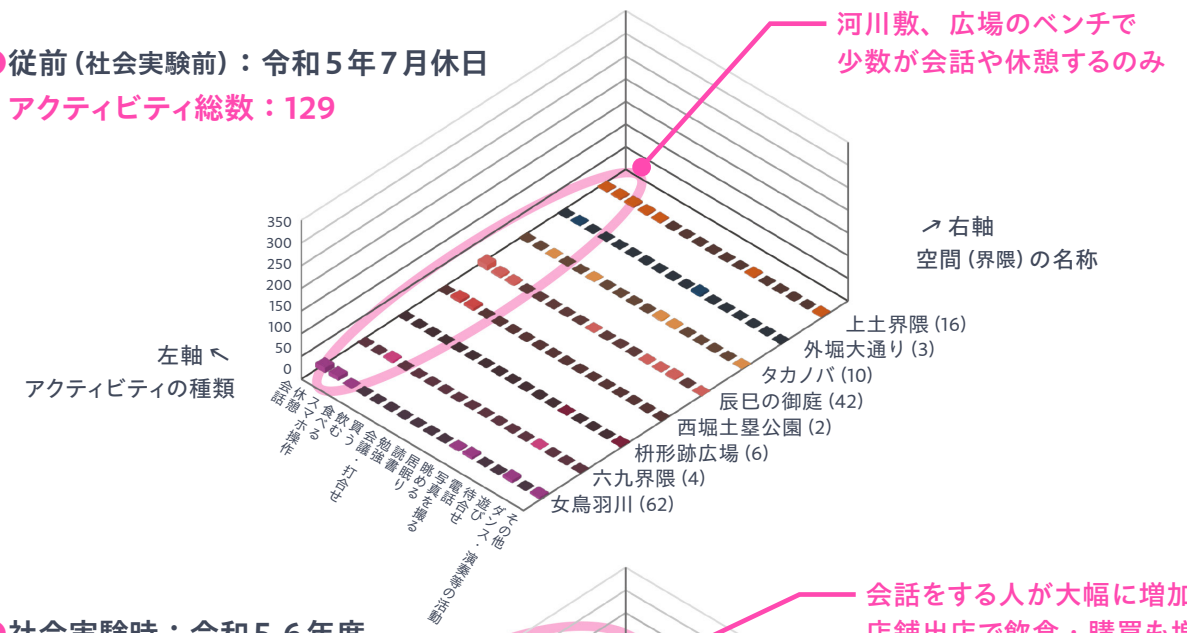
誰かに語りたい・伝えたい：93%

偶然の出会いの創出 出会いがあった：71% まちを訪れるきっかけの創出 初めて訪れた：39% 高い満足度 満足・やや満足：92%	多様なアクティビティの創出 アクティビティ数の増加 従前：129 ↓ 実施時：3,845 アクティビティの種類の増加 心地よい滞在・歩行環境の創出 心地よく利用した／歩いた：98% 市内／市外双方の利用の創出 市内外の方に利用された	各種表現／挑戦の受け入れ 新たなチャレンジが多くなされた 様々な新しいチャレンジや表現活動を受け入れた	長時間の滞在の創出 1時間以上の長時間滞在も多くみられた 「また来たい」という期待感の創出 また来たい：93%	社会活動の創出 社会活動のアクティビティ数の増加 従前：43 ↓ 社会実験：2,648 多様な世代／属性の利用 幅広い世代、属性の方の利用が見られた
--	---	--	---	--

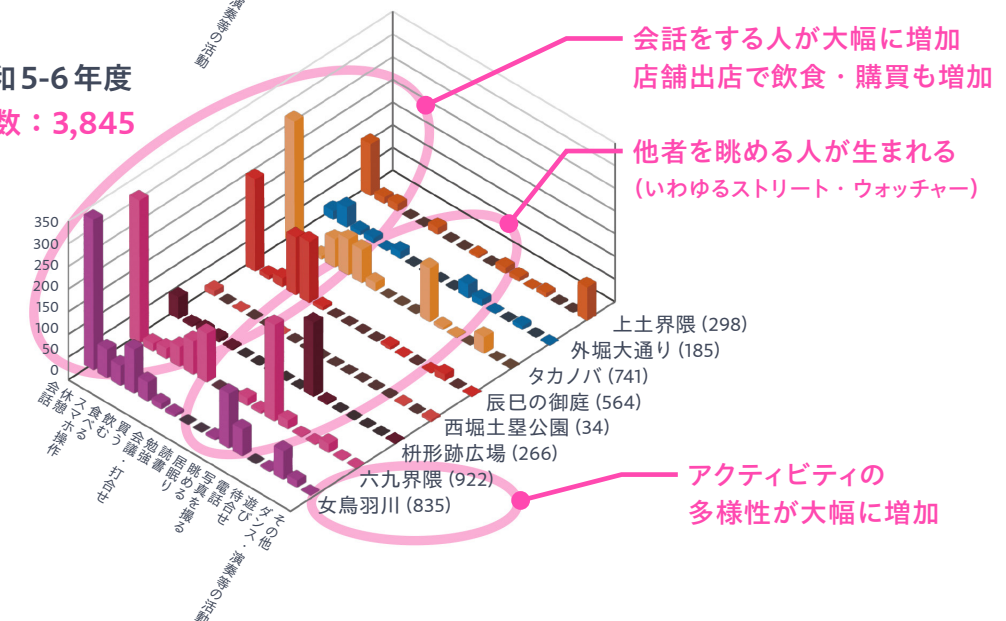
%表記は社会実験のアンケート結果を示す

アクティビティ調査：従前と比較し多様なアクティビティが創出された

●従前（社会実験前）：令和5年7月休日 アクティビティ総数：129



●社会実験時：令和5-6年度 アクティビティ総数：3,845



令和5-6年度の各社会実験が、エリアビジョンで掲げる「誰かに語りたくなる暮らし」の実現に寄与したと言えます

アクションプラン策定の経緯

小さなチャレンジ → 効果検証 → ブラッシュアップの積み重ね

令和5-6年度の2年間は、エリアビジョンに基づいたさまざまなチャレンジとその効果検証、それらを踏まえたブラッシュアップを繰り返してきました。そうした成果の積み重ねと生じた課題を踏まえ、アクションプランを策定し

ました。また、活動の過程でも、毎月のリーダー会議での情報共有や意見交換、パブリック・リレーションズの取り組みを通じた関わりしろの拡大、三の丸エリア内での他プロジェクトとの連携企画実施などに取組んできました。

関わりしろをつくるパブリック・リレーションズ

取組みをより持続的なものとしていくため、三の丸APや各プロジェクトの情報をわかりやすいかたちで可視化・発信しています。同時に、様々な人と三の丸エリアとの関わりしろを拡げて新たな担い手と繋がることを目指し、パブリック・リレーションズの取組みを進めています。複数の媒体を設けているので、ぜひ一度ご覧ください。



Web Page



Instagram

令和3年度以降の取組み内容

	令和3年度(2021)	令和4年度(2022)	令和5年度(2023)	令和6年度(2024)	令和7年度(2025)～
Step	Step 0 目指す姿と 進め方を考える	Step 1 エリアの豊かなシーンを 想像する Step 2 シーンに共感する仲間を見つける・増やす	Step 3 小さくチャレンジする／効果を検証し改善する		Step 4 日常のシーンへ
全体の動き	「エリアビジョン」 策定 3月	「三の丸AP」 設立 12月 公開プレゼン 3月 リーダー会議	公開レポート 11月 トーク企画 12月 公開プレゼン 3月 ① ② ③ ④ ⑤ ⑥ ⑦ ⑧	トーク企画 9月 公開レポート 11月 ⑨ ⑩ ⑪ ⑫ ⑬ ⑭ ⑮ ⑯ ⑰ ⑱	「アクションプラン」 策定 〇 〇 〇
チャレンジ (社会実験)	 三の丸APキックオフトーク (令和4年度設立総会時)	 三の丸APのメンバー (令和4年度公開プレゼンテーション時)	チャレンジ(社会実験) ①女鳥羽川界限 ②松本城大手門跡界限 ③大名町界限／⑥松本城南・西外堀界限 ⑤-1上土・緑町界限 ⑤-2上土・緑町界限 ⑨鷹匠町・北馬場界限 ④土井尻界限	Metobaリバーサイドプロジェクト 六九通り周辺の公共空間・空き店舗等利用検討会 THE SANNOMARU TERRACEプロジェクト お城下町まちづくりコミュニティ みどり食堂 松本国宝の架け橋プロジェクト まちなかりビング	一部継続 他界限の取組み
連携企画	 令和5年度 公開プレゼンテーション		図書館シンポジウム 12月 ライブラリーまつもと 2月 3月 4月 5月 6月 7月 8月 10月 11月 12月 2月 3月	三の丸AP事務局主体 エリアサイン 大名町通り 12月 フルフラット化社会実験	
パブリック・ リレーションズ		プレHP・SNSオープン 三の丸CLEAN&MEETS [対面] ① ② ③	[WEB] 6月 HPオープン [WEB] 10月 Journal [紙面] ① ② ③ ④ ⑤ ⑥ Magazine [WEB] ① ② ③ ④ ⑤ ⑥ 三の丸おさんぽ&MEETS [対面] ① ② ③ ④	⑦ ⑧ ⑨ ⑩ ⑪ ⑫ ⑬ ⑭ ⑮ ⑯ ⑰ ⑱ ⑦ ⑧ ⑨ ⑩ ⑪ ⑫ ⑬ ⑭ ⑮ ⑯ ⑰ ⑱ ⑦ ⑧ ⑨ ⑩ ⑪ ⑫ ⑬ ⑭ ⑮ ⑯ ⑰ ⑱	 三の丸CLEAN&MEETS



Metobaピクニックデイ



Riverside Bazaar coco soir
(ココソワール)



滞留空間創出 (大名町通り)



お城下町
パフォーマンスフェスティバル



みどり食堂



タカノバ

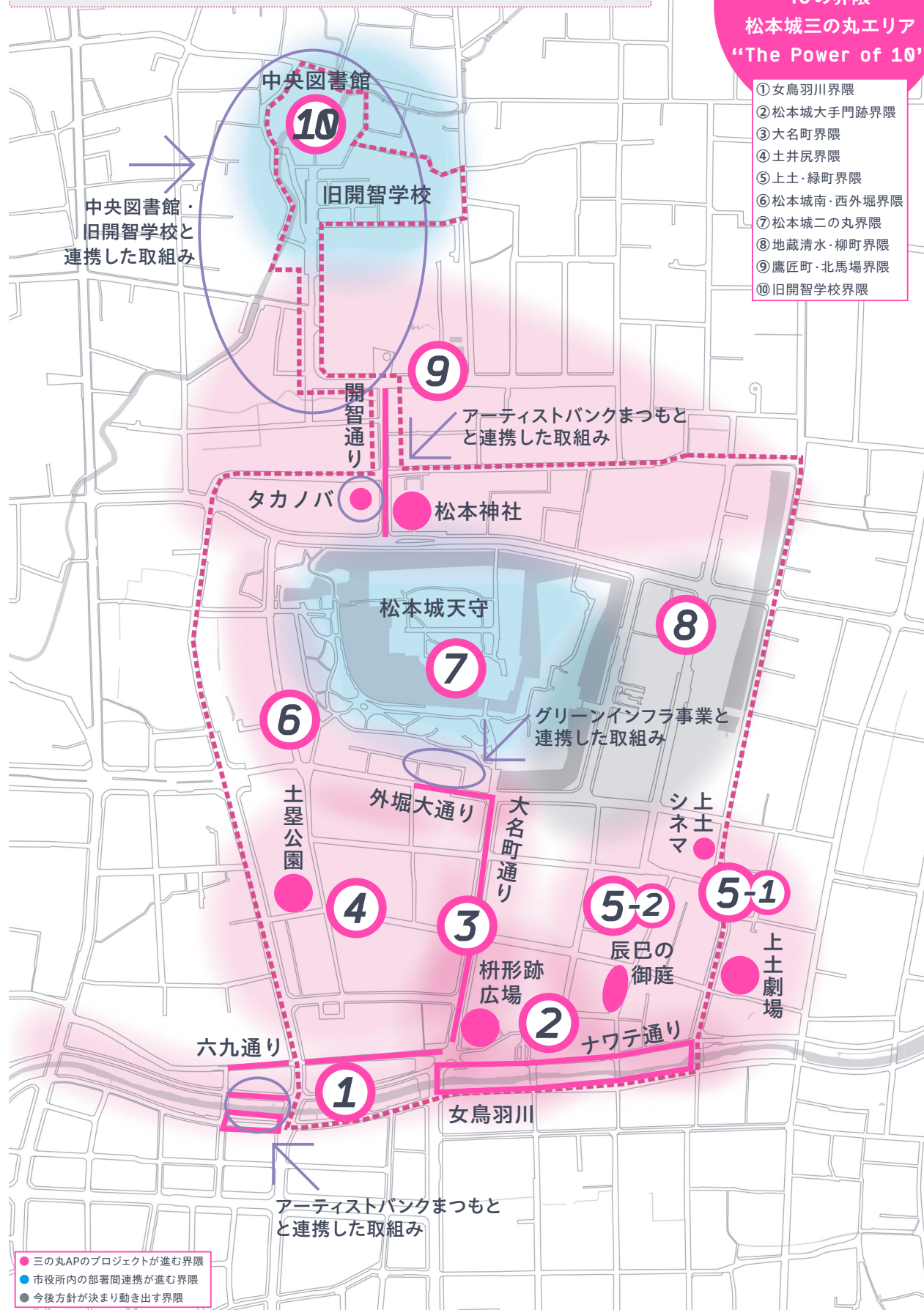


土井尻まちなかりビング



フルフラット化社会実験

2年間(令和5-6年度)のチャレンジ一覧



取組みを推進する 10の境界 松本城三の丸エリア “The Power of 10”

- ① 女鳥羽川境界
- ② 松本城大手門跡境界
- ③ 大名町境界
- ④ 土井尻境界
- ⑤ 上土・緑町境界
- ⑥ 松本城南・西外堀境界
- ⑦ 松本城二の丸境界
- ⑧ 地藏清水・柳町境界
- ⑨ 鷹匠町・北馬場境界
- ⑩ 旧開智学校境界

1 女鳥羽川境界 Metoba リバーサイドプロジェクト

- [令和5年度]**
- ・女鳥羽川の草刈り・清掃▷毎週実施
 - ・ピクニックセットレンタル▷通年
 - ・Metobaピクニックデイ▷10月7日±・8日±
- [令和6年度]**
- ・女鳥羽川の草刈り・清掃▷毎週実施+毎月エクセラン高校と実施
 - ・仮設階段設置▷11月4日±～6日±
 - ・ピクニックセットレンタル▷通年
 - ・Metobaピクニックデイ▷4月29日±、10月27日±
 - ・松本山雅との清掃・ピクニック▷8月17日±

2 松本城大手門跡境界 六九通り周辺の公共空間・空き店舗等利用検討会

- [令和5年度]**
- ・六九工藝祭▷5月27日±/28日±
 - ・六九古本市▷11月3日±
- [令和6年度]**
- ・六九工藝祭▷5月25日±/26日±
 - ・Riverside Bazaar coco soir▷7月27日±
 - ・六九古本市▷11月3日±

3 大名町境界 6 松本城南・西外堀境界 THE SANNOMARU TERRACE プロジェクト

- [令和5年度]**
- ・滞留空間の創出(大名町通り)▷通年
 - ・三の丸マルシェ(外堀大通り)▷4月1日±、9月16日±/17日±、10月7日±/8日±
 - ・ICE・BAR三の丸(外堀大通り)▷1月27日±
- [令和6年度]**
- ・滞留空間創出(大名町通り)▷通年
 - ・滞留空間創出(柵形跡広場)▷8月、1月24日±/25日±
 - ・桜BAR三の丸(外堀大通り)▷4月6日±/7日±、13日±/14日±

4 土井尻境界 まちなかりビング

- [令和6年度]**
- ・仮設小屋設置▷4月5日±～6日±、8月8日±、8月17日±～23日±など
 - ・土井尻まちなかりビング▷10月27日±

5-1 上土・緑町境界 お城下町まちづくりコミュニケーション

- [令和5年度]**
- ・お城下町パフォーマンスフェスティバル▷9月30日±～10月8日±
- [令和6年度]**
- ・あげつちシネマフェスティバル▷9月21日±/22日±
 - ・城下町・アーティスト倶楽部音楽祭▷10月12日±/13日±
 - ・まつもと演劇祭/お城下町パフォーマンスフェスティバル▷10月11日±～13日±

5-2 上土・緑町境界 みどり食堂

- [令和5年度]**
- ・みどり食堂▷4月9日±、8月5日±/6日±、10月14日±/15日±
- [令和6年度]**
- ・みどり食堂▷9月21日±、10月27日±
 - ・日陰・滞留空間常設設置▷9月～通年

9 鷹匠町・北馬場境界 松本国宝の架け橋プロジェクト

- [令和5年度]**
- ・タカノバ▷9月16日±オープン～通年
- [令和6年度]**
- ・タカノバ▷通年
 - ・アウトドア&防災フェス▷9月21日±
 - ・国宝の架け橋リビング▷11月9日±

三の丸AP主体 大名町通りフルフラット化社会実験

- [令和6年度]** 12月22日±

三の丸AP主体 エリアサインプロジェクト

[凡例] 活用した空間・制度 ■：道路活用 ■：河川活用 ■：民有地活用
■：広場活用 □：交通規制

他プロジェクトと連携した取組み

外堀大通り(グリーンインフラ)

山と街の緑の循環を目指し、外堀大通りに地元材を使い土に還るベンチを設置しました。グリーンインフラから広がる社会課題への関心向上や啓蒙啓発を図りながらくつろぎ空間を生み出し、エリアビジョンに掲げる「南・西外堀/天守/北アルプスを一体的に望む特等席」の実現に寄与します。

中央図書館・旧開智学校

まちなかにおける図書館の在り方を検討するシンポジウムの実施や連続トーク企画「ライブラリレーまつもと」の連携などを実施しました。旧開智学校のリニューアルオープンに合わせ、タカノバ、中央図書館、旧開智学校が連携して「国宝の架け橋リビング」を実施しました。

三の丸APや各界限のプロジェクトをきっかけとして、三の丸エリア内の他のプロジェクトと連携した取組みが生まれています。

文化振興(アーティストバンクまつもと)

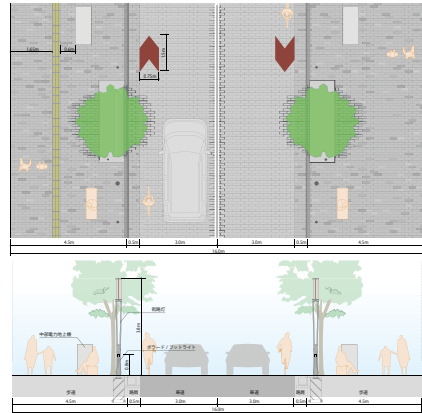
日常的にアートが感じられる街を目指す中で、アーティストバンクまつもとと登録者の発表の場として各界限のライブ企画と連携しました。

日常化に向けた動き

エリアビジョンで掲げた「境界の魅力が連なる歩行者ネットワーク形成」「選択多様性のある身近な居場所・目的地づくり」の実現に向け、2年間の社会実験・効果検証で一定の成果が得られた下記の取組みについて、今後関係者とともに日常化を目指していきます。

大名町通り再整備

道路総幅員16mのまま、歩道幅員を拡張し、歩車道をフルフラット化し、舗装、照明等の再整備を行います。将来的にはより歩行者に優しい環境づくりを目指します。



再整備時の平面・断面道路構成イメージ



再整備時のVRイメージ

大名町通りフルフラット化社会実験

再整備後の幅員構成や設え、滞留空間の確保等を実際のスケールで体感すること、また今後の道路活用をよりイメージしやすくするため、歩車道フルフラット化の社会実験を実施しました。



フルフラット化社会実験の様子

大名町通りの滞在空間化

大名町通りの店舗軒先にベンチを常時設置し、滞在空間を創出しています。また、外堀大通り南側歩道（紫陽花北側）には日陰付きベンチを新たに設置しました。大名町通り再整備後も制度を活用して通りの滞在空間化を目指します。



滞在空間化社会実験の様子

枡形跡広場の滞在快適性向上

枡形跡広場に日陰や滞留空間を設置し、滞在快適性を高めることを目指します。



滞在快適性向上社会実験の様子

六九女鳥羽川沿い道路歩行者天国化

毎週土曜日（仮）の歩行者天国化（時間帯交通規制）を目指し、松本市維持課、警察、公安委員会、周辺関係者等と検討・協議・合意形成を進めます。



歩行者天国化社会実験の様子

開智通りトランジットモール化

トランジットモール化（バスのみ通行可能な歩行者天国化）を目指し、松本市維持課、警察、公安委員会、バス事業者、周辺関係者等と検討・協議・合意形成を進めます。



トランジットモール化社会実験の様子

辰巳の御庭の滞在空間化

辰巳の御庭（松本市道）にベンチやせせらぎデッキ、日陰等を常設置し、滞在快適性の高い空間とすることを目指します。



滞在空間化社会実験の様子

女鳥羽川の回遊性向上

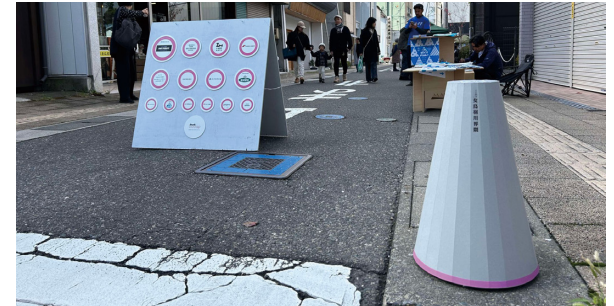
女鳥羽川の河川敷に渡渉ラインと階段を整備することで、ナワテ通り・中町通り双方への回遊性を向上するとともに、維持管理をしやすくきれいな河川環境を保ちます。



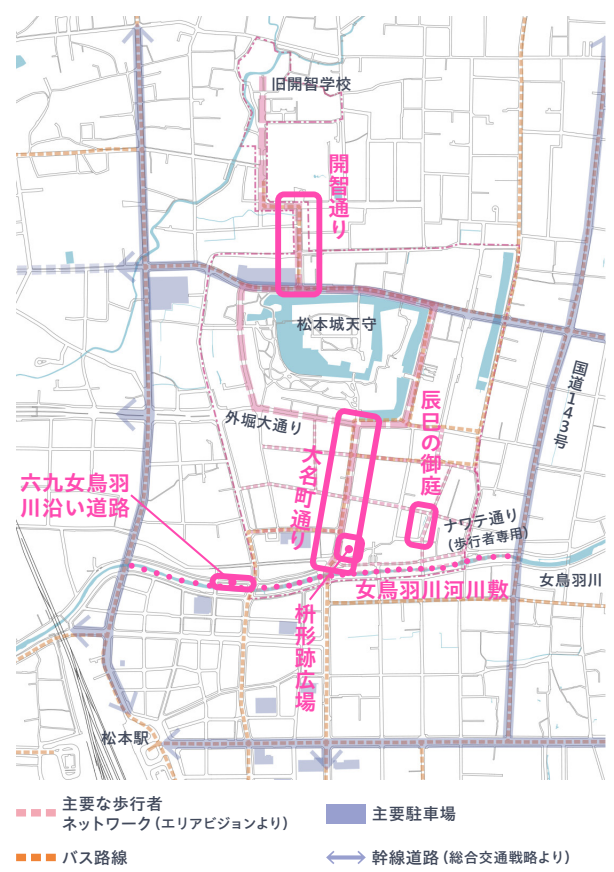
仮設橋設置社会実験の様子

エリアサインによる回遊性向上

さりげなく境界を知らせる道標としてのエリアサインを設置することで、訪問者の案内や誘導を行います。主に境界の境界部分に設置することを想定しています。



エリアサイン模型設置の様子



三の丸APサポーター募集中！

三の丸APでは、サポーターとして社会実験や三の丸APの取組みを支援いただけるボランティア・アルバイトも募集しています。街に関わりたい、街の人と繋がりたい、何か一緒にプロジェクトをやってみたい、といった想いのある方、ぜひ右記のQRコードよりお申込みください！



1 女鳥羽川界限

実施主体 Metoba リバーサイドプロジェクト



リーダー
渡辺 匡太
(株式会社スエト)



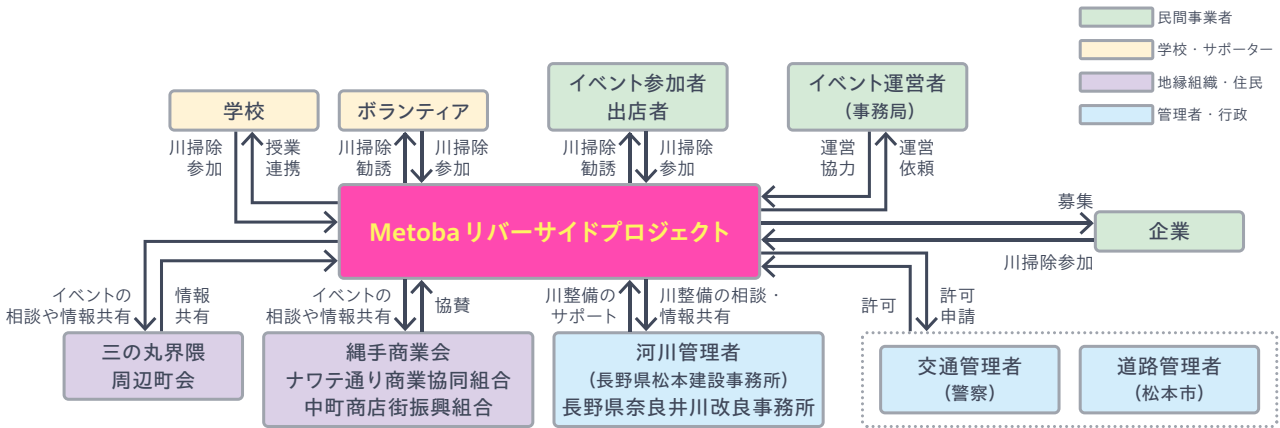
サブリーダー
クック 久美
(StoryhouseCafé & Bar/
NawateGuesthouse)

2年間たくさんの方の協力のもと活動してきました。松本市の中心市街地を流れるきれいな女鳥羽川は、松本の財産であり、いまでもこれからも市民や松本を訪れる人達にとって、思い出の場所や松本の代表的な景

- メンバー
- 伊藤優司 (越中屋)
 - 角田輝久 (鳥富)
 - ボイヤーケルトン (マウントデザートアイランドアイスクリーム)
 - 河西徳浩 (KeiundoDesign)
 - クッククリス (StoryhouseCafé & Bar)
 - 薬師寺麻記子 (ファミリーマルシェ)
 - 木内伸光 (翁堂)

色になればと思っています。そんな女鳥羽川を、街の皆さんがいつでも歩けるように維持管理しながら、たくさんの人にとってお気に入りの場所で人々に語りたくなる風景であり続けてほしいと思います。

実施体制 令和7年度以降、下記の体制とロードマップを描きアクションを進めていきます。



ロードマップ

	令和7年度(2025)	令和8年度(2026)	令和9年度(2027年)	令和10年度(2028年)	令和11年度(2029年)
①整備された川沿いで、いつでも利用できる状態に保つ	毎月の高校生との清掃活動 気軽に参加できる草刈り・ゴミ拾いイベント開催 奈良井川改良事務所と連携した定期的な整備				
②川沿いの日常利用の促進	ピクニックセットレンタルの継続実施				
ピクニックセットレンタル	コアメンバー集め・仕組みづくり	店舗拡大			
河川敷で誰でも気軽にアクティビティができることを周知	河川敷・ナワテ通りに看板の設置				
年2回のピクニックイベント開催					
③奈良井川改良事務所と松本建設事務所と連携した河川環境整備	渡渉ライン設置・階段設置検討				
④川沿いを利用した非日常的なイベントの企画・開催	将来的には日常になるようなイベントの企画・開催				
	ウォーターフロント構想の検討の場の立ち上げ・検討開始	構想作成 関係者合意形成	日常化に向けた行政手続き等	定期的な河川活用開始	

エリアビジョン シーンイメージ



これから実現したいシーン

- ①地元の老若男女が気軽に利用できる環境(座って寛げる場所)があるシーン
- ②暮らす人と訪れる人が自然と街を楽しむシーン
- ③地球や環境に優しい地元ならではの習慣があるシーン

今後のプロジェクト実施内容

- ①川沿いを整備し、いつでも利用できる状態に保つ
月1回の高校生との清掃活動、地元企業との清掃活動
気軽に参加できる草刈り・ゴミ拾いイベント開催
- ②川沿いの日常利用の促進
ピクニックセットレンタル
(連携店舗の拡大やフリー利用の検討)
河川敷で誰でも気軽にアクティビティができることを引き続き周知
- ③奈良井川改良事務所・松本建設事務所と連携した河川環境整備
持続的な維持管理と市民・来街者の回遊性創出のための渡渉ラインと階段の設置

2年間の取組みと生まれたシーン



- ①定期的に様々な人が川を掃除する機会やシステムづくり
- ②日常的なアクティビティ実施、日陰など滞留空間の設置
- ③川沿いを利用した非日常的なイベントの実施
毎週の草刈り、月1回の高校生との清掃活動によりきれいな女鳥羽川の環境維持を行っています。そのうえで、川の自由使用を促すピクニックセットのレンタルやタープによる日陰の設置、また各種イベントによる女鳥羽川への関わりしるの拡大を図ってきました。そして河川敷の維持管理の効率化と利用者の回遊性向上に寄与する渡渉ライン(橋・飛び石など)や階段の設置を目指し、仮設の橋・階段の社会実験も行いました。



- ④川沿いを利用した非日常的なイベントの企画、開催
将来的には日常になるようなイベントの企画・開催
河川の維持管理への関わりしる拡大へ

2 松本城大手門跡界限

実施主体 六九通り周辺の公共空間・空き店舗等利用検討会



リーダー
伊藤慶
(株式会社紙館島勇)



サブリーダー
前田大作
(アトリエ・エムフォオ株式会社)

アーケードがあった頃の印象が強いため、その撤去後は通行のための道路となっていた面が強く、商店街として対策が必要でした。一方でクラフトフェアからの流れで、個性的な店舗が徐々に増えてきていたこともあり、街の変革の時期でした。この流れは六九通りだけに限らず、大手門跡界限に関わる西堀や今町も同様でした。

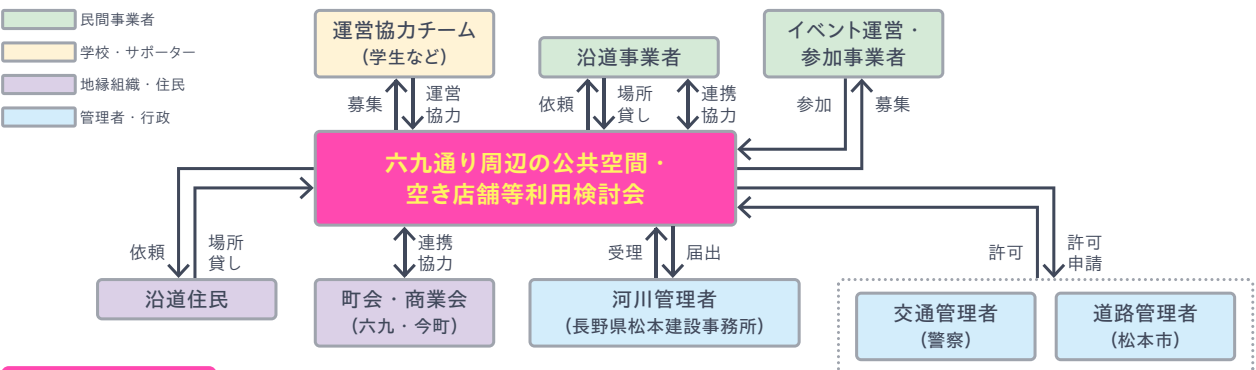
メンバー

- 細川良 (gram hair works)
- 山田照久 (monbus)
- 酒井三郎 (BAR & GRILL BURGER CHOP)
- 仁部信太郎 (日日)

これらの流れが現代の日常に合った街になることを目指しました。

まずは六九を主体に置き、春の工藝祭、秋の古本市を人が集まるイベントとし、公共空間である女鳥羽川を「楽しめる場所」として演出しました。その集大成が、令和6年7月に開催したココソワールです。これで夏にも場所を楽しむイベントが出来上がり、楽しめる場所としての印象を確立できたと思います。今後は、通りや町会の枠を超え、女鳥羽川と道路を有効活用して、より楽しい場所を創生していきます。

実施体制 令和7年度以降、下記の体制とロードマップを描きアクションを進めていきます。



ロードマップ

	令和7年度(2025)	令和8年度(2026)	令和9年度(2027年)	令和10年度(2028年)	令和11年度(2029年)
①毎週土曜日：女鳥羽川沿い道路の歩行者天国化	町会での意見収集、分析、検討、合意形成 活用内容、運営体制検討 警察協議、公安委員会要望	警察・公安委員会協議 構想作成 関係者合意形成	標識設置され次第 歩行者天国化実施	歩行者天国化実施	
②松本を代表するウォーターフロントの創出	ウォーターフロント構想の検討の場の立ち上げ、検討開始	構想作成 関係者合意形成	日常化に向けた行政手続き等	定期的な河川活用開始	
③イベントのサポート	運営協力チームのメンバー募集・体制構築	運営協力チーム主体でのイベント開催			
④空き家・空き店舗活用	暫定活用実績の積み上げ 行政・民間不動産等との意見交換	オーナーとの交渉等 行政・民間不動産等との意見交換	空き家・空き店舗情報公開、活用事業者募集のあり方等検討	定期的な活用実施	

エリアビジョン シーンイメージ



これから実現したいシーン

- ①毎週土曜日(仮)は、“六九リバーサイドテラス(仮称)”
- ②7月の夕暮れ、リバーサイドバザール「ココソワール」
- ③秋には、六九古本市。初夏には、六九工藝祭。

今後のプロジェクト実施内容

- ①毎週土曜日：女鳥羽川沿い道路の歩行者天国化(時間帯交通規制)
女鳥羽川沿い道路(市道1502号線：白翁稲荷神社付近からmonbus付近まで)を毎週土曜日に歩行者天国化
ベンチやカウンター、沿道店舗のテラス席等の滞留空間設置時にはイベントとしても活用
- ②松本を代表するウォーターフロントの創出
河川敷の活用、川を使ったアクティビティの促進、カウンターや照明等の設置、定期的な維持管理により象徴的なウォーターフロントを創出

ハード整備／空間改変のイメージ

六九通り南の女鳥羽川沿道は、美しい川の流れや西に広がる空の景色が素晴らしいロケーションです。そこに、歩いている人がゆっくり滞在するような場所をデザインできれば、松本に類を見ない広々としたウォーターフロントになるのではないかと。私たちはそれを目指しこれからも取り組んでいきます。

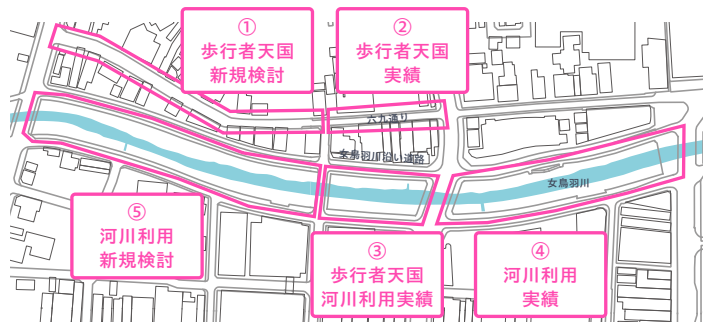
2年間の取組みと生まれたシーン



- ①女鳥羽川沿い道路の歩行者天国化 + 河川敷活用
- ②六九通りの歩行者天国化
六九界限の個性をより強め、点在する空き店舗に新たな明かりを灯すことを目的に、そぞろ歩きしながら六九界限の個性的な店舗を楽しめる環境づくりとして、毎週土曜日に女鳥羽川沿い道路を交通規制して歩行者天国化することを目指し、既存イベントである六九工藝祭や古本市の際に通りの歩行者天国化を試行してきました。また、ココソワールという新たなイベントを立ち上げ、歩行者天国化した女鳥羽川沿い道路と河川敷を活用した新たな風景も作り出しました。



- ③イベントのサポート
5月末開催の六九工藝祭／7月末開催のココソワール／11月頃開催の六九古本市等のサポート
- ④空き家・空き店舗活用
六九工藝祭等のイベントの際に、空き家・空き店舗を暫定活用
土地・建物オーナーとの関係性構築



3

大名町界限

大名町通り・外堀大通り南側
歩道(紫陽花北側)・枅形跡広場

実施主体

THE SANNOMARU TERRACE プロジェクト



リーダー

神澤佑樹
(ホーユウ有限会社)



サブリーダー

大宮康宣
(株式会社田立屋)

松本城・三の丸倶楽部を主体とし、近隣住民や大名町町の皆様と共に2年間活動してきました。今まで培ってきた経験や知識、繋がりを活かして取り組んだこの2年間の成果は、大名町を新しいステージへ導いたと思

メンバー

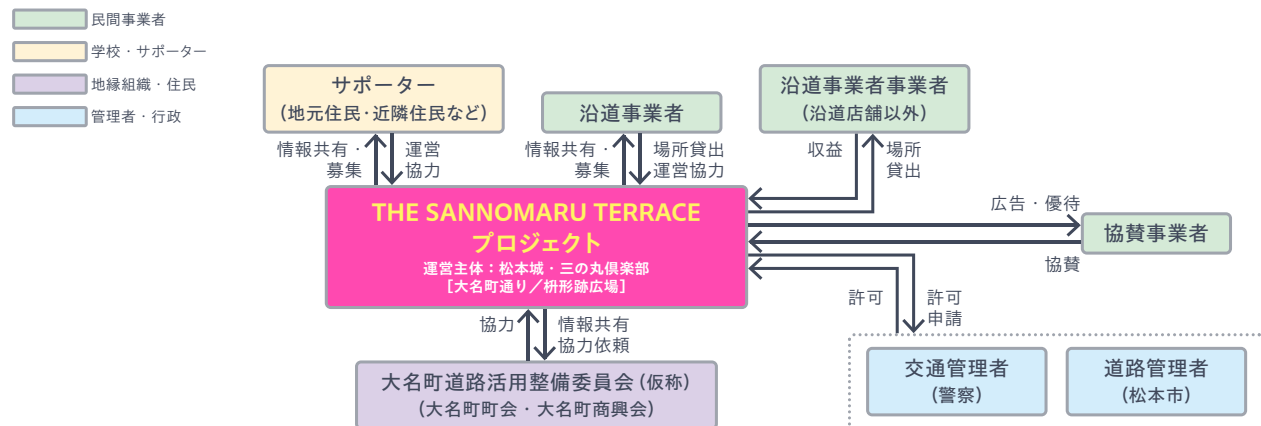
齋藤忠政
(扉ホールディングス株式会社)
上原秀(北野建設株式会社)
橋由紀(ホーユウ有限会社)
長谷川幸代(紫陽花)

福澤崇浩(三代澤酒店)
植田幸恵(植田鯉節店)
大宮小依(株式会社田立屋)
山田智之(松本信用金庫)
出井健太郎(百老亭)

います。今後、大名町通りは道路の再整備を経て大きく生まれ変わります。国宝・松本城天守への登城道として、歴史や伝統を感じられる街並みを目指し、今後はプロジェクトメンバーだけではなく、今まで以上に近隣住民や大名町町会との一体化を図り、連携しながらこの街の未来を描いていきます。

実施体制

令和7年度以降、下記の体制とロードマップを描きアクションを進めていきます。

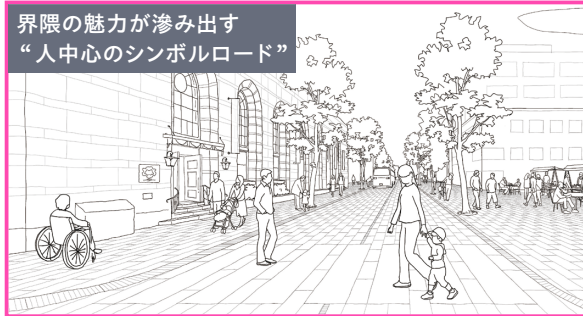


ロードマップ

	令和7年度(2025)	令和8年度(2026)	令和9年度(2027年)	令和10年度(2028年)	令和11年度(2029年)
①くつろぎのひとときをつくる 基盤づくり					
大名町通り、枅形跡広場の ストリートファニチャー等の改善 と整備	利用状況、損傷具合の把握 ニーズ調査	デザインコンセプトの作成 と検証 サンプル作成	実証実験(工事進捗に応じて) 検証と改善	製作	道路活用開始
大名町通りの活用に向けた社会 実験	道路活用検討委員会(仮) 立ち上げ 住民や企業との協力関係構築	協賛できる仕組みづくり コミュニティの巻き込み 資金調達	実証実験(工事進捗に応じて)	実証実験(工事進捗に応じて) 検証と改善	道路活用開始
ユニバーサルデザインのまち づくり	来訪者の把握 ニーズ調査	道路整備と併せた全体像の 作成	実証実験(工事進捗に応じて) 検証と改善	実証実験(工事進捗に応じて) 検証と改善	道路活用開始
②交流のひとときづくり					
空間利用に対しての活用マネー ジメント(質と持続可能性)	ニーズ調査 地域住民との交流	協力体制の構築 空間デザインの作成と決定	実証実験(工事進捗に応じて) 検証と改善	実証実験(工事進捗に応じて) 検証と改善	道路活用開始
交流の場の創出	現状分析 目指す形の具体化	他団体との連携 プロモーションと認知拡大	実証実験(工事進捗に応じて) 検証と改善	実証実験(工事進捗に応じて) 検証と改善	道路活用開始

エリアビジョン シーンイメージ

界限の魅力が滲み出す
“人中心のシンボルロード”



2年間の取組みと生まれたシーン



- ①ストリートファニチャーによる滞留空間創出
- ②大名町通りの再整備に向けた社会実験の実践と検証
- ③枅形跡広場の滞留空間創出

コロナ禍より継続して取り組んでいる大名町通りの歩道を活用した滞留空間創出をベースとしながら、枅形跡広場での滞留空間化や外堀大通りでの交流の場の創出に取り組んできました。今後は、令和10年頃竣工予定の大名町通りの再整備と並行して、大名町通りの活用に関する内容・組織体制・仕組み等の検討を進めていきます。

これから実現したいシーン

誰もが感じる `ちょっとしたひととき、の空間づくり

- ①城内三の丸を感じるシーン
- ②松本の人を感じるシーン
- ③暮らす人と訪れる人が共にくつろぎ、楽しむシーン

今後のプロジェクト実施内容

①くつろぎのひとときをつくる基盤づくり

THE SANNOMARU TERRACE (大名町から3界限への拡張とくつろぎのブラッシュアップ)

大名町通り、枅形跡広場のストリートファニチャー等の改善と整備

大名町通りの再整備に向けた社会実験への協力
ユニバーサルデザインのまちづくり

②交流のひとときづくり

空間利用に対しての活用マネージメント(質と持続可能性)
交流の場の創出



ハード整備／空間改変のイメージ

総幅員16mは変えず、幅員構成を変えて歩道を4.5mに拡張することで、歩行者にとってより安心安全な環境へと改善します。また、車道と歩道の高さが同じフルフラットな道路とすることで、歩きやすく滞留や活用もしやすくなる道路への再整備の検討が進んでいます。2年間の社会実験の成果も再整備後の活用・運営へと繋げていきます。



4 土井尻界限

実施主体

まちなかりビング



リーダー

伊藤靖樹

(長野県建築士会松筑支部
ひとまちづくり委員長)



サブリーダー

野口大介

(長野県建築士会松筑支部
ひとまちづくり委員)

長野県建築士会松筑支部で平成27年に土井尻界限を調査し、基本方針の策定をおこないました。今回三の丸APに参加し仮設小屋というツールを用いて土井尻界限の『まちなかの居住に特化した界限』という特徴を再認識すると共に、資源としての空き地や空き家等の

メンバー

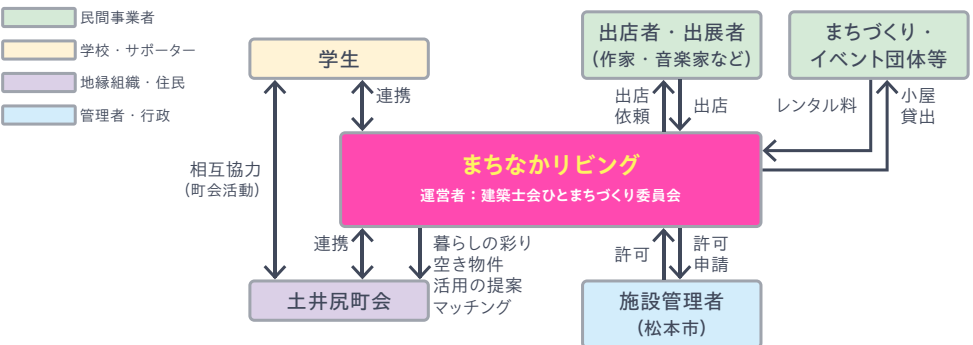
製作・運営に関わったメンバー：

山田健一郎(支部長) 澤地和宏(委員)
長谷川繁幸(副支部長) 宮澤佳優(委員)
川島智隆(副委員長) 小笠原み江(委員)
荒井洋(委員) 田中一興(委員)
藤松幹雄(委員) 荒井理(委員)

ポテンシャルを見出すことを目的としました。令和6年10月27日には公共空地である土壘公園に仮設小屋を設置し機械機を用いてワークショップを行い、「暮らしの彩り」のヒントが見つけれられました。今後仮設小屋を使いながら、界限の空地・空き家の活用を提案し、町会の方々と共に展開していきながら、土井尻が暮らしに特化した界限である特徴を活かした「暮らしの彩り」を共に創っていきます。

実施体制

令和7年度以降、下記の体制とロードマップを描きアクションを進めていきます。

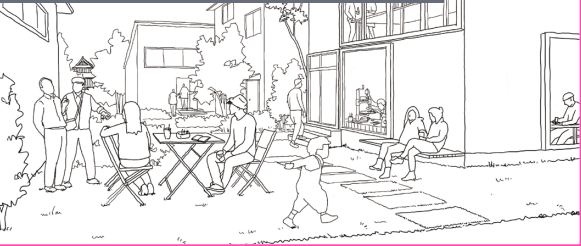


ロードマップ

	令和7年度(2025)	令和8年度(2026)	令和9年度(2027年)	令和10年度(2028年)	令和11年度(2029年)
①土井尻地区の暮らしににぎわいを					
まちなかりビングルーム体験	仮設小屋を用いて、木工芸、陶芸などのワークショップによるまちなかりビングルームの体験 まちなかコンサート等暮らしの彩りの探究と創設				
空き地、空き家を開く		土井尻での実績を積み上げ、町会の方々に寄り添いながら利用方法を検討していく		パイロットプラン：空き家、空き地の有効活用の実験、検証をおこない、実践を目指す	
②仮設小屋を空き地や公共空間等に置き、屋根・壁がある空間を作り場所の活用を図る					
仮設小屋の貸し出し 空間・使い方の提案・連携	他団体への貸し出しは、小屋の維持費として原則賃料を徴収する(三の丸APへは無料で貸し出す)				

エリアビジョン シーンイメージ

なりわいと緩やかな人とのつながりが息づく
“共生の暮らしの舞台”



2年間の取組みと生まれたシーン



「まちなかりビング」

建築士ならではの職能を活かして空き地や公共空地などに居場所を作る。“仮設小屋”というツールを使いながら地域とコミュニケーションすることで、「暮らしの場」に彩りを作っていく。
仮設小屋を製作し公共空間に設置することで、試験的な居場所作りを図ってきました。一方で、空き地や空き家が点在する土井尻界限に新たな風を吹き込む足がかりとして、仮設小屋を用いて土壘公園にてクラフト体験ができる居場所作りを行いました。これによって建築士と地域との交流が生まれ、地域が抱える様々な問題点を把握するきっかけとなりました。

これから実現したいシーン

- ①仮設小屋が「まちのえんがわ」となり、
界限のポテンシャルをひらく
- ②まちなかにある静かな住宅街で住み、働き、様々な人々と係る日常。
この場で過ごすことで人生を深めていく…そんな暮らしの舞台

今後のプロジェクト実施内容

- ①土井尻地区の暮らしに彩りを
地区内の空き地・空きスペースに仮設小屋を建て、生活に彩りを加えるようなスペースを展開し周辺のクローズドな環境を徐々に開いて、生活に彩りを加えていく。さまざまな活動を通してその場所の可能性を見出し、さらには空き家などの活用につなげたい。
- ②仮設小屋を空き地や公共空間等に置き、屋根・壁がある空間を作り場所の活用を図る

ハード整備／空間改変のイメージ

建築士会メンバーでコンペを行い、デザイン・機能・実現性をもとに選ばれた案です。ヒノキ材のパネルを結束バンドで固定する方法で、特殊な工具なく組み立てられるのが特徴です。



地元の人々が集い出会える場(町会活動や交流の場として)
子供たちの遊び場
クラフト作家とのコラボレーションスペース
③界限での暮らしを疑似体験するようなしつらえの提供
建築士のスキルを活かして需要に応じて仮設小屋をさらにアップデートしていく。



5-1 上土・緑町界限

実施主体 お城下町まちづくりコミュン



リーダー

増田博志

(上土商店街振興組合)



サブリーダー

永高英雄

(上土劇場)

メンバー

三村晃 (総合企画事務所エムエープラン)

山本真也 (ナワテ通り商業協同組合)

北原嗣正 (緑町)

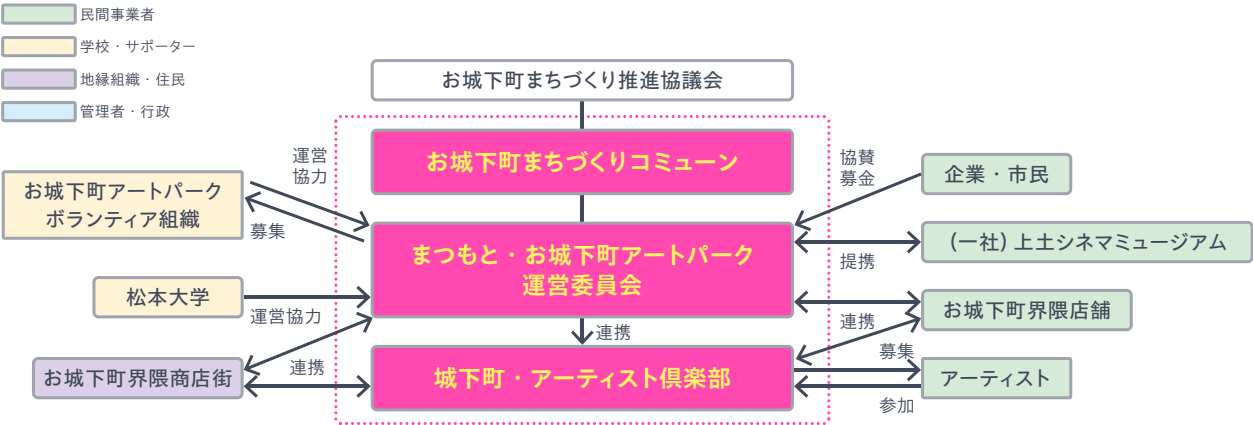
渡辺宏 (上土商店街振興組合)

お城下町は30年以上前から街並み環境整備などに取り組んできました。エリアビジョン策定にあたり、ナワテ通り、緑町それぞれの取り組みと合わせ、「お城下町エリア」として、今までのイベントを繋ぎ合わせ、アー

トパーク計画を策定し、映画の街・演劇の街などアーティストの集う街を目指した取り組みをしてきました。今回創設した「城下町・アーティスト倶楽部」には20を超える個人・団体の方々に登録いただき、公演等たくさんの参加をいただきました。地域課題であった、旧映画館の再生・利用に向けても明るい見通しが出てきました。

実施体制

令和7年度以降、下記の体制とロードマップを描きアクションを進めていきます。



ロードマップ

	令和7年度(2025)	令和8年度(2026)	令和9年度(2027年)	令和10年度(2028年)	令和11年度(2029年)
①“まつもと・お城下町ライブ・アートパーク”計画の策定・定着	ライブ・アートパーク計画のブランディング(年次達成目標の策定)→年次達成目標の遂行				
②上土・緑町界限におけるソフト・ハード両面における“ランドマーク”の確立					
「城下町・アーティスト倶楽部」メンバーによるパフォーマンスの定期的公演の実現	アーティスト倶楽部音楽祭の開催 お城下町パフォーマンスフェスティバル&演劇祭(令和9年度:30周年)の開催				
“まつもと・お城下町ライブ・アートパーク”としてのランドマーク構築のため、上土シネマの再生を目指す	上土シネマミュージアムとの連携事業の構築 まちなかポスター展年次計画の策定→年次計画の実施				
③“まつもと・お城下町アートパーク”チャンネルの創設 全国的な浸透/個店情報の拡散	YouTubeチャンネルの開設→登録者数の拡大 協賛店ネットワークの構築→充実強化				

エリアビジョン シーンイメージ

文化の香りと名店の味が楽しめる
“日常を彩る巡り合いの場”



2年間の取組みと生まれたシーン



- ①日常的にパフォーマンス公演ができる環境の構築
- ②城下町・アーティスト倶楽部の創設
- ③商店街の活性化につながる「アートパークとの連携」のしくみづくり

これまで積み重ねてきた「まつもと演劇祭」や上土シネマの活用等を継続的な実施に加え、日常的に街かどでアーティストのパフォーマンスが見られるような界限を目指し、アーティストと住民・商店街が連携する「城下町・アーティスト倶楽部」を立ち上げ、枳形跡広場や四柱神社、ナワテ通り等でパフォーマンスを展開しています。



これから実現したいシーン

- ①城下町を舞台にタイムトラベル感覚でエンターテイメントを楽しむシーン
- ②“お城下町エンタメパーク”で非日常を肌で感じるシーン



今後のプロジェクト実施内容

- ①“まつもと・お城下町ライブ・アートパーク”計画の策定・定着

これまでバラバラ感のあったイベントを“アートパーク計画”として統一感を持たせ、わかりやすくし定着させる。

- ②上土・緑町界限におけるソフト・ハード両面における“ランドマーク”の確立

「城下町・アーティスト倶楽部」メンバーによるパフォーマンスの定期公演の実現。

“まつもと・お城下町ライブ・アートパーク”としてのランドマーク構築のため、上土シネマの再生を目指す。



- ③“まつもと・お城下町アートパーク”チャンネルの創設、全国的な浸透/個店情報の拡散

上記①②の事業にかかわる情報発信のためYouTubeチャンネルを創設するなど、個店とのネットワークを構築する。

5-2 上土・緑町界限

実施主体

みどり食堂



リーダー

佐々木文宣

(蕎麦倶楽部佐々木)



サブリーダー

菅原巖礼

(うどん勝利)

メンバー

北原嗣正(緑町)
東山謙児(ゴロー)
澤田守雄(桜家)
打木宏子(いかるがの里)
百瀬昌伸(空)
白鳥光明(酒処いわな)
五味靖夫(pizza verde)
松木研(東寿司)
東さより(ベーカリーマルトウ)

大倉定夫(大倉)
浜田せり(じゅげむ)
堀内遊穂(彗星倶楽部)
深澤広亮(深酒)
池田浩(Baden Baden)
岩下浩(樽吉)
阿部琢久哉(喫茶山雅)
前田善徳(acquabuono)
山元睦美(株式会社レストラン鯛萬)

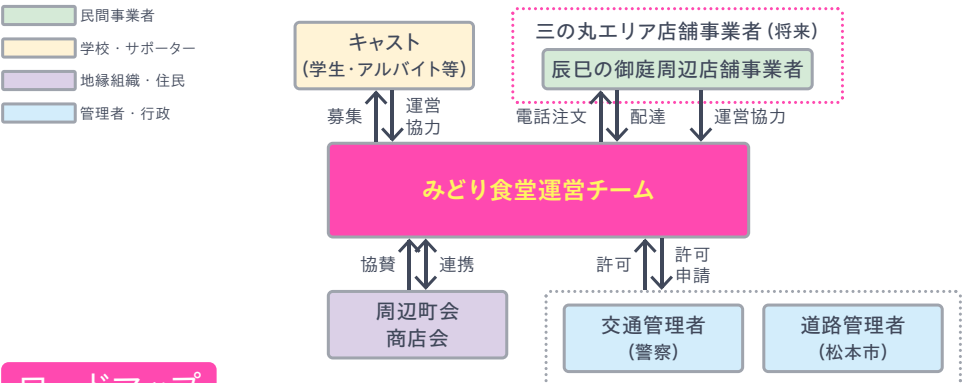
大きな通り、賑やかな場所から一本入った通りに「みどり食堂」の舞台、辰巳の御庭があります。そこには、歩いていて心安らぐ空間が広がり、喧騒から一歩置いた静かな庭、街並み、通りが市民の心を癒し、海外の方にとっては実に味わい深い蔵造りの家並みに出逢えます。近年国内外の旅行者の隠れた被写体としてカメラ

を向けている人々を見かけるようになってきました。

コロナ禍に縁側作戦としてスタートを切ったみどり食堂は、新しいフードコートとして進化してきました。今後も市民の憩いの場所、松本の隠れた観光スポットとしてのポジション確立を目指して参ります。

実施体制

令和7年度以降、下記の体制とロードマップを描きアクションを進めていきます。



ロードマップ

	令和7年度(2025)	令和8年度(2026)	令和9年度(2027年)	令和10年度(2028年)	令和11年度(2029年)
①みどり食堂の開催	季節に応じたイベント型みどり食堂の実施				
日常型：テイクアウトシステムの構築	アナログ化	デジタル化	三の丸エリアに拡大	他地域へ拡大	
②辰巳の御庭に常設の憩い寛げる空間創出・運営	植栽・滞留空間・舗装等の検討、関係者協議	ハード整備	常設滞留空間の運営		
③街の魅力発信	辰巳の御庭にて周辺の歴史等のアナログ表示	デジタル情報発信	店紹介含めた総合案内検討・アナログ表示	デジタル総合案内	他地域と連動したデジタル情報発信
④「どうぞ表示」ボード設置	軒先の折畳式イス・テーブル等検討		案内板等の他地域連動化		
⑤みどり食堂を文化、物販のイベントへと拡大	アコースティックギターライブ誘致	地場産業紹介目的のクラフト展		他地域との連動イベント発展へ	
⑥辰巳の御庭東側道路の活用検討	道路の一部の歩行者天国化検討・活用内容検討		他地域と日時を合わせ共同で歩行者天国化		

エリアビジョン シーンイメージ

文化の香りと名店の味が楽しめる
“日常を彩る巡り合いの場”



2年間の取組みと生まれたシーン



これから実現したいシーン

- ①辰巳の御庭にて「みどり食堂」の定期開催
- ②辰巳の御庭を「街のフードコート」「下町の舞台」として活用し、文化や物販を季節ごとに楽しむ
- ③設備と近隣店からのサービスを整え、辰巳の御庭で日常的に憩い寛ぐ



今後のプロジェクト実施内容

- ①みどり食堂の開催(イベント型・日常型)
季節ごとにデリバリーによるイベント型みどり食堂を実施
テイクアウトによる日常型みどり食堂を実施
→テイクアウトシステムの確立
- ②辰巳の御庭に常設の憩い寛げる空間創出・運営
滞留空間、植栽、舗装等の検討、関係者協議
→常設の滞留空間創出・運営へ

ハード整備／空間改変のイメージ

什器、日除け、照明等の常設設置による滞留空間の拡充を図ります。



せせらぎデッキイメージ
(令和5-6年度社会実験時)

③街の魅力発信

みどり食堂メニュー、チラシ等の広報に、辰巳の御庭の案内や歴史、周辺店舗の紹介や見どころを織りまぜて街の魅力を発信

④「どうぞ表示」ボード設置

辰巳の御庭周辺店舗において、トイレ貸出、店舗軒先への椅子設置、案内板設置等、お店のできるサービスを各店舗で考案

→将来的な民間サービスシステムとして確立

⑤みどり食堂を文化、物販のイベントへと拡大

⑥辰巳の御庭東側道路の活用検討

什器イメージ(令和5-6年度社会実験時)



テーブル+椅子パターン

サイドテーブル付きベンチパターン

9 鷹匠町・北馬場界限

実施主体

国宝の架け橋プロジェクト



リーダー

荒井洋

(HAL 設計室代表)



サブリーダー

古田健司

(元沢村町会長)

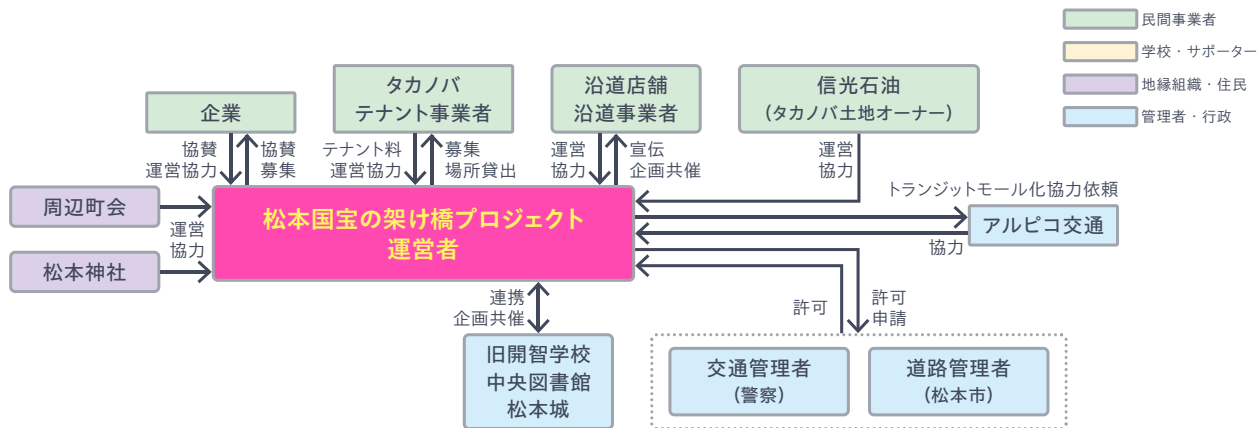
メンバー

藤木大介 小山修正 松本美江
中田充 益山代利子 岩下亮太
西沢啓子 鈴木陽輔 山田光花莉
甕秀行 鈴木隆子 小松誠

償で敷地を提供して下さらなかったら実現できなかった事業で感謝申し上げます。お陰様でタカノバは小学生の認知度が高く地域住民にも認知されつつあります。この流れを周辺の空き店舗活用へと広げつつ歩行者中心の道路環境の整備も働きかけていければと考えています。

実施体制

令和7年度以降、下記の体制とロードマップを描きアクションを進めていきます。



ロードマップ

	令和7年度(2025)	令和8年度(2026)	令和9年度(2027年)	令和10年度(2028年)	令和11年度(2029年)
①タカノバの創出・運営	タカノバは9月末にて仮施設としての運営を終了予定	タカノバの精神を受け継いだ地域に必要な跡地活用の検討			
②界隈の空き家・空地の活用	タカノバの実績を上げる	所有者に対して有効利用を働き掛ける	第一歩として空き店舗活用を始める	空き地に店舗を建て街並みを連続させる	界隈の賑わいを持続させる
③開智通り等の交通再編	年に4回程度ランジットモールを実施し周囲の理解を得る	年に4回程度ランジットモールの実施 ランジットモールの実績を基に道路形状の在り方を考える	曜日・時間帯限定のランジットモールの実施 ランジットモールの実績を基に道路形状の在り方を考える	道路整備の実施	時間・曜日限定のランジットモール化を目指す
④旧開智学校・中央図書館との連携	松本城から旧開智学校へ向かう道の入り口としての誘客を担う	図書館機能の一部を担う沿道店舗の実証実験を行う	居住者と来訪者双方に受け入れられる店を誘致する	通りの賑わいを継続する	通りの賑わいを継続する

エリアビジョン シーンイメージ

暮らす人と訪れる人が緩やかに共生する
“2つの国宝の架け橋”



- ①タカノバの創出・運営
- ②屋根等の設置によるタカノバの環境向上
- ③開智通りのランジットモール化+道路活用
- ④松本神社境内の一体的活用
- ⑤旧開智学校・中央図書館との連携



これから実現したいシーン

暮らす人の生活に寄り添い、訪れる人がめぐりたくなるシーン

今後のプロジェクト実施内容

松本城と旧開智学校の中間にある仮設店舗の利用率を上げ、ひとびとの暮らしと娯楽が交差する魅力的な空間タカノバを創出・運営する。仮設店舗終了後もタカノバの精神を引き継ぎ敷地所有者と協力して地域に必要な新たな拠点作りを目指す。

①タカノバの創出・運営

タカノバ施設の有効活用を促進する

エリア空間の充実

デッキスペースでのイベントの開催

情報発信

地元新鮮食材やお土産等の常設販売

ハード整備／空間改変のイメージ

空き家・空き地の有効活用を図り周辺住宅街と調和のとれた賑わいある通りを創出し、時間・曜日限定のランジットモール化の実現を目指します。

2年間の取組みと生まれたシーン



信光石油ガソリンスタンド跡地を借り受けて暮らす人と訪れる人が緩やかに共生する拠点として、シェアキッチンや物販店、屋外テラスなどのある「タカノバ」をオープンし、2年間(令和5年9月～令和7年9月)運営をしています。また、2つの国宝を繋ぐタカノバ前の通りを定期的なランジットモールとすることを目指して、ランジットモール化社会実験を2回実施し、旧開智学校や中央図書館との連携した取組みも進めています。



タカノバ終了後の跡地利用に関して、土地所有者と協力してタカノバの精神を反映した跡地活用を目指す

②界隈の空き家・空地の活用

敷地周辺の空き家に新たな店が開店

→今後も店舗の誘致を積極的に進め居住者と来訪者

双方に受け入れられる界隈を目指す

③開智通り等の交通再編

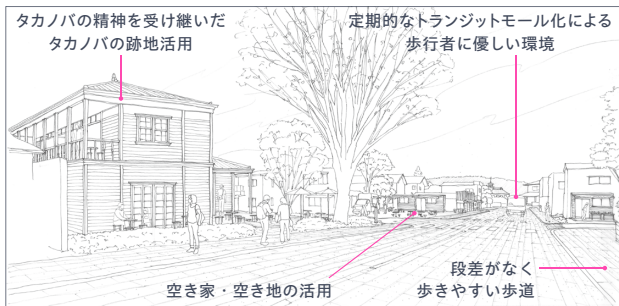
タカノバと松本神社間の道路の定期的なランジットモール化

→三の丸エリア往來の活性化、松本城と旧開智学校

の間を歩いて楽しいエリアに

④旧開智学校・中央図書館との連携

将来像の検討・イベント等での連携



三の丸APとは

緩やかな関係性を紡ぐ “三の丸エリア プラットフォーム”

●構成員

三の丸APは、エリアビジョン実現に向けたプロジェクトを実施する主体となる「事業会員」、プロジェクト実施の協力を行う「連携会員」、プラットフォームの運営を担う「運営委員」などにより構成されます。



【プロジェクトサポーター、会計、監事、事務局】

●役割



毎月のリーダー会議による
情報共有・意見交換



プロセスを公開する
令和5年度公開プレゼンテーション

●三の丸APプロジェクトチーム

各界限のプロジェクトを行政としてバックアップするため、三の丸APと連動する市役所内のプロジェクトチームを組織し、部局横断でサポートをしています。

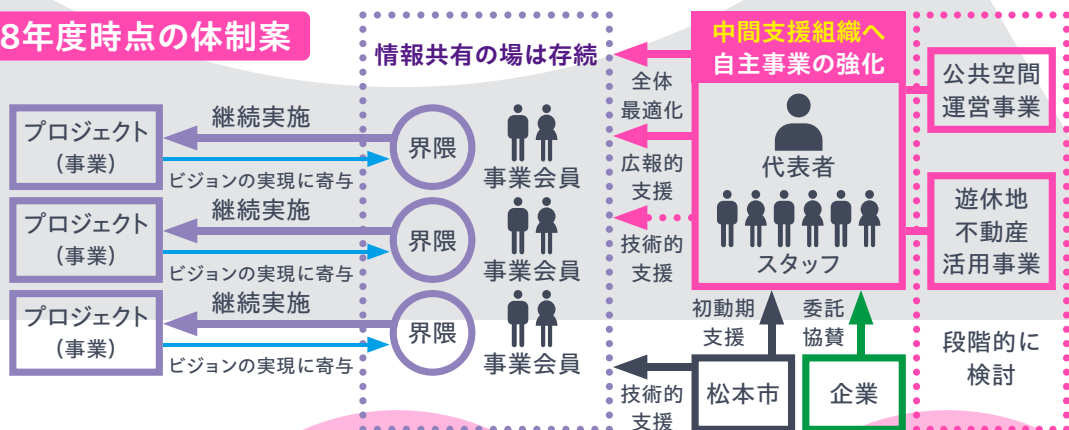
今後の組織体制の見通し

三の丸APでの取組みを将来的に持続可能な形で継続し、エリアビジョンの実現を引き続き目指すため、三の丸AP事務局を発展的に中間支援組織（仮称）へと移行します。令和7年度は現行の体制を引き継ぎつつ、中間支援組織（仮称）が担う事業や具体的な体制・人員のあ

り方などを検討します。令和8年度中には三の丸AP事務局を中間支援組織（仮称）へと移行し、準自走化する状況を構築します。

※中間支援組織（仮称）：行政と民間・地域との中間に立ち、エリア価値向上に資する事業や支援を行う組織

令和8年度時点の体制案



●私たちは三の丸APの目指す「誰かに語りたくなる暮らし」の実現を応援します

